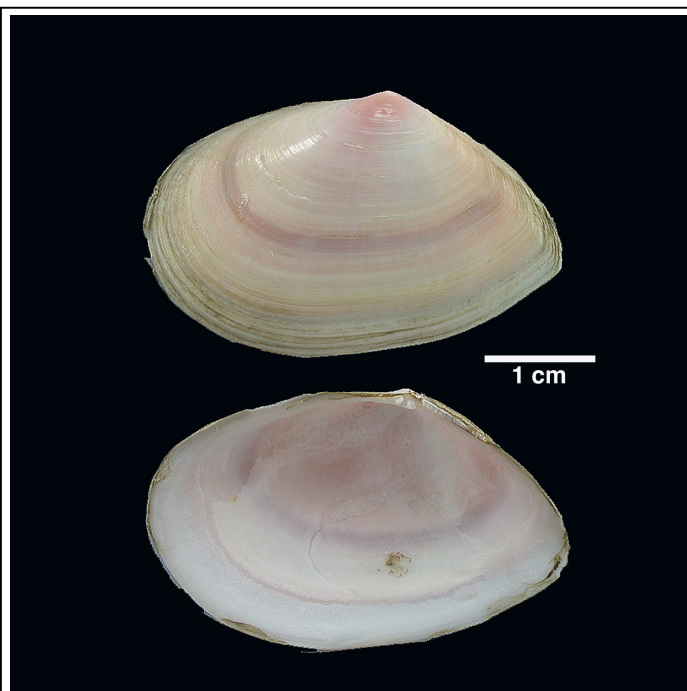


オオモモノハナ *Platetellina praetexta* (Martens)

【選定理由】

本種は湾口部から外洋に面した海岸の潮下帯の砂泥底に生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種もかつては知多半島伊勢湾側、渥美半島外海側で死殻が打ち上げられていたが、近年はほとんど採集することができない。1999年からの3回(30地点以上)、知多半島伊勢湾側から三河湾湾口部の海域をドレッジにより調査した結果、生貝は採集されず、少数の死殻が採集されたにすぎない(木村, 2000; 木村, 未発表資料)。その後の調査でも死殻が稀に採集されているが、生貝は確認できない。引き続き絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



伊勢湾湾口部水深 12m(三重大学勢水丸ドレッジ), 1997年3月28日, 木村昭一採集(死殻)

【形態】

殻長約 35 mm で、殻は卵形で膨らみは弱く扁平。殻はやや薄く、桃色で成長脈に沿って色彩の濃淡がある。後背縁は張り出して後端はとがる。

【分布の概要】

【県内の分布】

生息場所、個体数が減少し、生貝が採集されない。近年でも、三浦半島、九州北部などでは打ち上げ採集で普通な種であるが、伊勢湾・三河湾では湾口部を含めて死殻さえ稀な種となっている。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、台湾、日本では北海道南部～九州に分布する(木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。近年生貝が採集されない。また、死殻もほとんど採集できない。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20. 名古屋貝類談話会.
木村昭一, 2012. オオモモノハナ, p. 123. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)